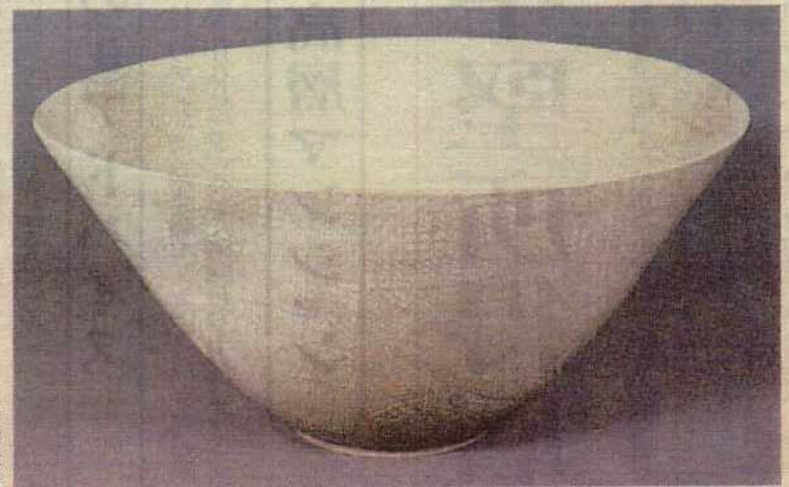


準大賞 「練上大輪華」



優秀作品賞 「剪紙寄せ型文鉢」



優秀作品賞 「春二想フ」



優秀作品賞 「掛分組浅鉢」

日本陶芸展 入賞作品決定

「第18回日本陶芸展」(毎日新聞社主催)の審査が行われ、入賞・入選作計198点が決まった。前回より100点多い1100点の公募作品と招待作家28人の作品の中から「実力日本」の作品として、崎山隆之の「扁壺『聴涛』」が大賞(桂宮賜杯)に輝いた。入賞・入選と招待作家の作品は、東京と大阪で展示される。東京展は5月12、24日、大丸ミュージアム・東京。京都千代田区丸の内1の9の1。大阪展は6月1、6日、大丸ミュージアム・心齋橋(大阪中央区心齋橋筋1の7の1)。(敬称略)

作品は小座野容寄写す

作品をチェックする審査員—東京都港区内の審査会場で、山田研写す

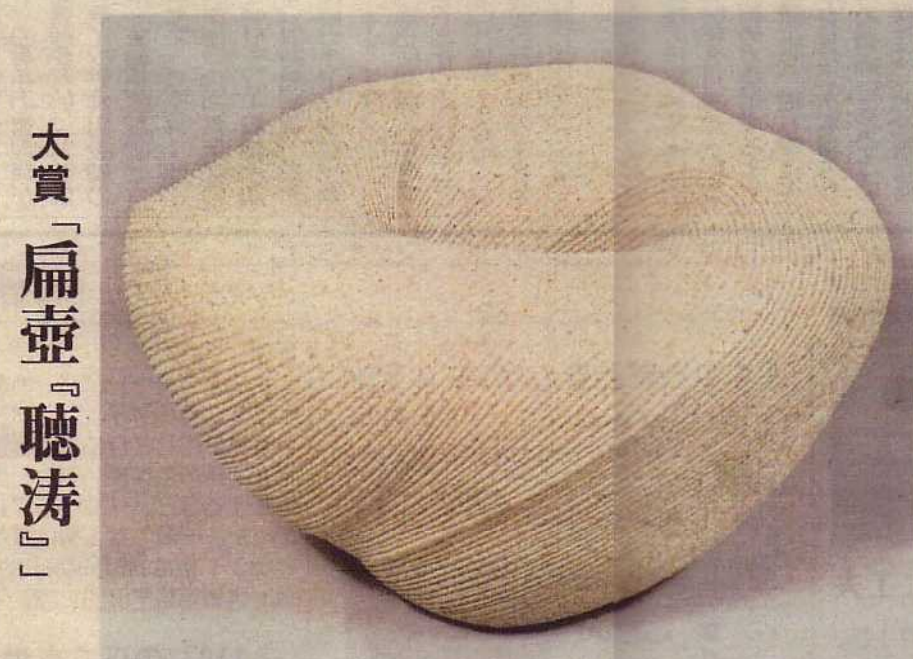


土と火の共演

日本陶芸展は、1971年に毎日新聞の創刊100周年記念事業として創設され、2年に一度開催している。審査員(今回は15人)は美術評論家や陶芸を専門とする美術館の館長らで、陶芸作家は入っていない。

今回の審査は第1部(伝統部門)、第2部(自由造形部門)、第3部(実用陶器部門)に分かれた作品について進められた。「これで陶家の人生が変わる」(審査員の一人)と、審査員は広い会場を埋めた作品を丹念にチェック。入賞対象の絞り込み方法は各部門ごとに話し合われて決められ、評価が分かれた作品については、その場で議論したり、挙手になる場面もあった。

水尾・部門審査長評 芸術的レベルが少し高くなった。実用に適していれば美しさも兼ね備えるもので、年々いいものが増えている。今後はコーヒーや紅茶セット、菓子皿など日常生活の茶器でいい作品を期待したい。



大賞 「扁壺『聴涛』」

人賞 人選した方々

- 大賞(桂宮賜杯) 崎山隆之 (静岡県賀茂村)
- 準大賞(日本陶芸展賞) 練上大輪華(第1部) (兵庫県賀茂村)
- 萩野萬壽子 (奈良県河合町)
- 優秀作品賞(文部科学大臣奨励賞) 剪紙寄せ型文鉢(第1部) (茨城県笠間市)
- 山路和夫 (茨城県笠間市)
- 優秀作品賞(毎日新聞社賞) 春二想フ(第2部) (横浜市栄区)
- すずきたもつ (横浜市栄区)
- 掛分組浅鉢(第3部) (鳥取市)
- 坂本章 (鳥取市)

- 【第1部門】入賞候補
- 藤原正夫(茨城)、菊地勝(山梨)、鈴木徹(岐阜)、大和努(山口)、世良彰彦、田中光謙、松尾無蔵(福岡)、井上康徳、西山宗元、森啓輔(佐賀)
 - 入選▽尾形香三夫(北海道)、野田秀恵、橋本昌彦(宮城)、佐藤幹、志賀暁吉(福島)、荒田耕治、飯村岩男、浦口雅行、澤田勇人、松井康陽、渡部佳文(茨城)、加藤益男、佐伯守美、高木泰平、矢内齊(栃木)、佐藤桂(群馬)、伊東祐一、岸英夫、草薙洋二郎、下里光正、虎澤英雄(埼玉)、上瀧勝治、上瀧浩一、神谷紀雄、星野榮一、堀切由紀子、三崎哲郎、美崎光邦、和田的(千葉)、明石

- 拓馬、岩瀬健一、加藤進一、藤井隆之(東京)、齋藤龍也、鈴木三成、富岡誠一、成毛進、平賀妙子、前田正博(神奈川)、佐藤實(長野)、鈴木敦士、増田晶、矢田敦子(静岡)、辻田岳秀、西田真也(三重)、大樋勸兵衛、北出幸綱、北濱芳恵、南繁正(石川)、阿奴(滋賀)、加藤清和、柴田良三、藤井秀次、利茶土ミルグリム(京都)、北野勝彦、古野勢児、古野幸治、古谷徹、吉川光太郎(大阪)、市野悦夫、市野元和、市野信水、市野良行、加古勝己、ピーター・ハーモン(兵庫)、糸井康博、山中辰次(奈良)、山本浩彰(鳥取)、出井尚文、久保田厚子、小澤未廣、佐藤善助、シヨン

- ・トーマス・ウェルズ、戸川博之、中尾晃、森泰司、矢部篤郎、山下讓治(岡山)、後藤英夫、小林良巳、小原よう子、山根宏造(広島)、阿佐寿美子、上田敦之、岡田裕、新庄貞嗣、水津和之、中村岳、大和祐二、大和吉孝(山口)、伊藤信夫、豊農美重子、平岡明美(香川)、大西光、杉田緑風(愛媛)、鬼丸碧山、亀井味菜、亀井又生庵、熊谷光甫、高橋勝也、添田和信、中垣忠夫、松尾まさこ、丸田巧、渡久兵衛(福岡)、今泉今右衛門、奥川俊右衛門、高森誠司、中村清吾、西山正(佐賀)、津金日人夢(熊本)

- 【第2部門】入賞候補
- 森口ナオヒコ(千葉)、松澤恵美子(神奈川)、佐藤雅之(岐阜)、岡部元信(奈良)、西村芳弘(広島)
 - 入選▽戸広臣(青森)、泉田之也(岩手)、小峰尚、由良利枝子(茨城)、石嶋哲彦(栃木)、榮一男(埼玉)、坂口喜美子(千葉)
 - 入選▽七尾佳洋、前田英伸(北海道)、大津廣司、高橋春夫(茨城)、岡部耕太郎、萩原毅久、粕谷完二(栃木)、石川真理、濱野和代、松形恭知(埼玉)、三崎哲郎(千葉)、駒ヶ嶺独楽(東京)、速水夏彦(神奈川)、東條康(静岡)、坂本章(鳥取)、陰山善市2点、島根大、多々納真2点、深津典子2点(島根)、芝君江、福田圭吉(大阪)、田中ひろや、中本万理恵、西川都子(兵庫)、佐保川晶子(奈良)、大和保男(山口)、篠原元郁(愛媛)、尾崎玲子(福岡)、松竹純(熊本)

- 【第3部門】入賞候補
- 岩瀬健一(東京)、福岡秀士(島根)、阿部眞士(福岡)、六平(佐賀)
 - 入選▽七尾佳洋、前田英伸(北海道)、大津廣司、高橋春夫(茨城)、岡部耕太郎、萩原毅久、粕谷完二(栃木)、石川真理、濱野和代、松形恭知(埼玉)、三崎哲郎(千葉)、駒ヶ嶺独楽(東京)、速水夏彦(神奈川)、東條康(静岡)、坂本章(鳥取)、陰山善市2点、島根大、多々納真2点、深津典子2点(島根)、芝君江、福田圭吉(大阪)、田中ひろや、中本万理恵、西川都子(兵庫)、佐保川晶子(奈良)、大和保男(山口)、篠原元郁(愛媛)、尾崎玲子(福岡)、松竹純(熊本)

- ◆第1部(伝統部門) 応募685点、入賞・入選124点(賞候補13点) 審査員—乾由明、竹内順一、富山秀男、中ノ堂一信、林屋晴三、吉田耕三 乾・部門審査長補佐評 粒がそろい、例年以上よかった。奇をてらうことなく一見地味でも、神経のよくいきとどいた仕事があった。ただ一部に技術があっても表現力に乏しかったり、新鮮味のない作品があったのは残念だ。
- ◆第2部(自由造形部門) 応募224点、入賞・入選40点(賞候補6点) 審査員—井関正昭、榎本徹、金子賢治、武田厚、福田繁雄 武田・部門審査長評 新しい作家の応募が多かった。また、イメージーションを素直に造形し、素材も無理なく使った、個性的な表現が目立った。この部門の未来も期待できる、気持ちのいい審査になった。
- ◆第3部(実用陶器部門) 応募192点、入賞・入選34点(賞候補5点) 審査員—黒川雅之、長谷部満彦、水尾比呂志、山下和正 水尾・部門審査長評 芸術的レベルが少し高くなった。実用に適していれば美しさも兼ね備えるもので、年々いいものが増えている。今後はコーヒーや紅茶セット、菓子皿など日常生活の茶器でいい作品を期待したい。